

判定用紙

日付: _____ 準決勝 / 決勝 試合会場: 第1

肯定側: DDS 否定側: AK2 Brain

判定理由・コメント

A 脳の脆弱性

否定側は制約の存在と、経験的にありたいことを根拠としたが、それは脆弱性を克服し得ることを証明してしまふ。しかし、肯定側は経験的に脆弱性の改善が多少はあり得ることを証明してしまふ。

B 安全保障

危険は存在し、安全保障の多少は改善されておらず、
- 予知能力が乏しいが、「それは共同歩調」等。

C 脳機能改善の可能性、2-つの課題

1-つは問題を解決する基盤があるかどうかであるが、肯定側は肯定、肯定側の立場では、2-つより更(5)可能性がある。肯定側の立場では、経験的に根拠が明瞭で、互証可能性が高い。2-つは、経験的に明瞭、問題の互証が余地があるにすぎない。互証が乏しいが、肯定側の立場では、信頼性が高い。2-つは2-つの課題は、~~異なる~~ 中か同一の経験から導かれる。全体としていけば、一言でいって、ポジティブな面が、先ず、(4)程度の目に見える改善を期待する。

A、Bの1-つはインパクトが大きい。2-つは連言するCのインパクトは明確であり、経験的に結論をたずねる理由がみえらる。

このディベートにおける勝者は: AK2 Brain

審査員署名: _____

判定用紙

日付: 2004/3/14

準決勝 / **決勝**

試合会場: MATの大会

肯定側: アセア・パシフィックの会

否定側: ak2brains

判定理由・コメント

すなわち、専門家の経済学やの身では判断しづらい材料にまで踏み込んだという点で、両者ともに評価できるとも、専門家の意見が割れている点で、当然と云えば当然ではあるが、今後の議論もこのレベルにまでいかないと可が。

メリット

(2NC 1st)

(2NC last)

現在が最も適切なレベルで大体言っている。EUの2次経済が「コンタクト」という話のレベルで固まっています。確かに、経済的安定度の低い国は他国に対してダメージをこうするところがあるからしれません。しかしそれがEUだけの「新アジア通貨圏」全体に~~恐怖状態~~恐怖状態をもたらすおそれがあるのは確信が持てます。否は①の経済特区にapplyする流れとこのレベルでいいから、ASEANのしほりを出しているおと、EUの国の経済の足を引っ張るような行動が~~論議下の状況~~論議下の状況では成立しづらいのかもしれないと持てます。
①の国のダメージ、レベルを考慮す。

デメリット

(7441と判断の前提として)

新通貨通貨圏の話では、2NCの最初2枚のカードは、EUがTPPが条件的に「来る」というカードである。①の「このカード」は細かい数字にはあてませんが、各指標の分析を行っていると確信が持てる。また、NECの子教目録、トータル見て「反対か」と言える。②決定の理由は正直なものです。

メリット

(いける advantage の部分について)

- 程度がどのくらいかはわかりませんが、論議を採択した「一団」の下に「集約」が協調にむかうという点はコンセンサスです。範囲内で「混乱」を避けることで、自身(中国)の身にはあてられて、このような行動を控える、という動機も働いていよう。
- 指標の中心については、論議採択した方が「ハナ」であることは明白。単に「大」であること、最近のカードで「乱高下」本場操作のリスクが「蓄積」されていること、ありのままでいよう。

EUも大々的には このディベートにおける勝者は: アセア・パシフィックの会

採択するおとが、「新通貨通貨圏」で「一団性」あつて具体的なリスクをあげる、という

Criterion を評価(する)。

審査員署名: _____

判定用紙

日付: 3/13

準決勝 /

決勝

試合会場: 特 1

肯定側: 死せるディベーター会

否定側: ak2

判定理由・コメント

- 前提: 最適通貨圏について。 肯定側の見解がすばてではないと思われ。
- 通貨危機のリスクについて ^{も通化する}
現状でも対策は進んでいるが、リスクがないとは言えない。よって ある程度 価値はある。
- 戦争の回避について
ほぼ肯定の主張ばかり
- かきとれの調整について
最適通貨圏に、一つの手段が絶たれること ^は 確定だが、元々も有効性、他の手段との優越性などはあからない。
- 銀行倒算について
銀行の倒算は大きなインパクトがあるが、全体として国や社会に与える影響はよくあからない。
- アメリカの反発について ^{ゼロ}が途中で終るため 評価不能
- 産業への影響 (コスト削減のせい) について ^{ゼロ} インパクトが不明

<結論>

経済面ではある面では利点がありある面では欠点もあるため、どちらがよいかは判断できない。しかし、ASIAでの中心地 ^は かんわはこの政策において得られた 利点 として十分評価できる。

固有の

<コメント>

Aff. ・相争の立証にギリを提示する方がなく
逆の証明をもと力をいれていいと思います。
・ユーロ例に似てはいるとは思いませんか?

Neg. ・サイルホスライクをちゃんとやって下さい。(INC)
・「あの政策をやっている」という事実と
「こういう現状がある」という事実を
並べた上で因果関係の立証になっていない
事がある気がします。(レート調整の効果ない)

このディベートにおける勝者は: Aff. 死せるディベーター会

審査員署名: _____